

9. Deep Sedation による小児歯科治療の試み

○塚本 末廣, 一木 數由, 手嶋 文史,
久芳 陽一, 副島 嘉男, 小笠原 靖,
金 孝玩, 矢田 育男, 吉田 稜
(福歯大・小児)

意志の疎通がはかれない低年齢児で重症の乳歯う蝕を持ち、放置しかねる症例の場合は全身麻酔を用いた歯科治療が一部で行われている。しかし、一般的には取扱い可能な年齢になるまで予防処置のみを行い経過観察という形で放置される症例が多い。

アメリカの小児歯科専門医はこのような理解力がない非協力の低年齢患児で、しかも乳歯う蝕が軽度の場合でも、可及的にDeep Sedation による歯科治療を行ない積極的対応を計っている。

そこで、今回我々は、日本で市販されている薬物を応用してDeep Sedationによる小児歯科治療を試みたところ、興味ある知見を得たので報告する。

対象：低年齢で意志の疎通がはかれない患児とした。2歳台が最も多かった。

使用薬剤：催眠剤（トリクロロールシロップ）、抗アレルギー性精神安定剤（アタラックス-Pシロップ）、抗ヒスタミン剤（ピレチア）などを組み合わせて使用した。

投与方法：ジュースに混入して経口的に、治療開始の1時間前に服用させた。

治療方法：完全に入眠した状態で局所麻酔を使用し、ラバーダム防湿を確実にを行い、笑気吸入鎮静法（40～50%）を併用して治療を行った。

術中管理：術者の傍でもう一人の歯科医がバイタルサイン（呼吸数・脈拍数・血圧・酸素飽和度）を測定しながら患者を管理した。